



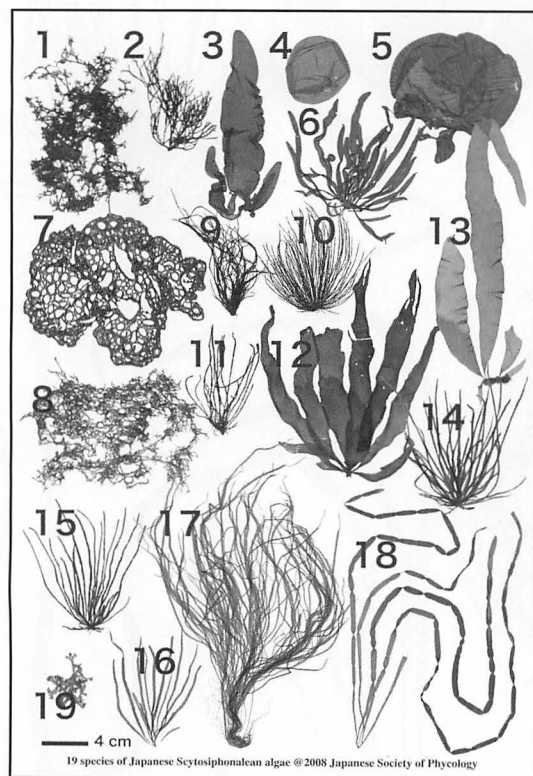
19 species of Japanese Scytosiphonales algae @2008 Japanese Society of Phycology

日本のカヤモノリ科

このグループは、普通に見られる一般的な種類が多く、また、熱帯から寒帯まで広く分布する。以前はカヤモノリ目としてまとめられていたが、カヤモノリ目とともに、ナガマツモ目、ウイキョウモ目を含む広義のシオミドロ目の使用が一般的になり、科の階級として扱われる。カヤモノリ科の特徴は、細胞あたり1個の側壁性の葉緑体を持ち、葉緑体が1個の比較的大きなピレノイドを持つことである。多くの種は、配偶体が大形で孢子体が小形の異形世代交代を行い、以前はこのような生活史の型もこのグループの特徴とされていた。しかし、分子データと葉緑体の特徴から、コモンブクロ科に分類されていたイワヒゲ、ウツロイワヒゲ、キタイワヒゲがこのグループのメンバーであることが明らかになり、この3種がおそらく同型世代交代をす

ることから、生活史型の共通性はなくなった。カヤモノリ科の外形は、分枝・無分枝、中空・中実、円柱・扁平などの形質が組み合わさり、図にあるように多様である。属は、このような藻体の外形と体構造の形質により定義されるが、分子系統と矛盾する部分も多く、分類体系の変更が必要である。種のレベルにおいては、ウスカワフクロノリ、カヤモノリに複数種の存在が示されている。異形世代交代をする種の孢子体は、数mmから数十mmの糸状、盤状または殻状体である。孢子体が単子嚢のみを形成する種（ワタモ、カヤモノリ、セイヨウハバノリなど）と単子嚢に加え複子嚢を形成する種（ムラチドリ、フクロノリ、カゴメノリなど）があり、この形質は分子系統とよく一致している。

(北海道大学大学院理学研究院 小亀一弘)



1. *Chnoospora implexa* J. Agardh ムラチドリ (沖縄県本部町)
2. *Chnoospora minima* (Hering) Papenfuss ポウガタムラチドリ (沖縄県石垣島)
3. *Colpomenia bullosa* (Saunders) Yamada ワタモ (北海道室蘭市)
4. *Colpomenia peregrina* (Sauvageau) Hamel ウスカワフクロノリ (北海道厚岸町)
5. *Colpomenia sinuosa* (Mertens ex Roth) Derbès et Solier フクロノリ (沖縄県名護市辺野古)
6. *Colpomenia phaeodactyla* Wynne et J. N. Norris ホソクビワタモ (熊本県三角町)
7. *Hydroclathrus clathratus* (C. Agardh) Howe カゴメノリ (静岡県下田市)
8. *Hydroclathrus tenuis* Tseng et Lu ホソカゴメノリ (沖縄県石垣市竹富島)
9. *Myelophycus cavus* J. Tanaka et Chihara ウツロイワヒゲ (長崎県鷹島町)
10. *Myelophycus simplex* (Harvey) Papenfuss イワヒゲ (熊本県上島有明町)
11. *Melanosiphon intestinalis* (Saunders) Wynne キタイワヒゲ (北海道茅部郡鹿部町)
12. *Petalonia binghamiae* (J. Agardh) Vinogradova ハバノリ (北海道松前町白神岬)
13. *Petalonia fascia* (O. F. Müller) Kuntze セイヨウハバノリ (青森県下北郡大間町)
14. *Petalonia zosterifolia* (Reinke) Kuntze ホソバノセイヨウハバノリ (北海道小樽市忍路)
15. *Scytosiphon canaliculatus* (Setchell et Gardner) Kogame カヤモドキ (北海道小樽市忍路)
16. *Scytosiphon tenellus* Kogame ヒラカヤモ (北海道室蘭市)
17. *Scytosiphon gracilis* Kogame ウスカヤモ (兵庫県淡路島)
18. *Scytosiphon lomentaria* (Lyngbye) Link カヤモノリ (北海道室蘭市)
19. *Rosenvingea intricata* (J. Agardh) Børgesen モサクダフクロ (沖縄県うるま市)

(すべて北海道大学大学院理学研究院所蔵押し葉標本)